



みなみおか

第 29 号
2021. 3. 26
発行



3月23日の卒業式。本当に感慨深く迎えました。このような日々を過ごすことになるなど予想もしなかったことが起こった1年でしたが、6年生のリーダーシップの下、全校児童みんなで乗り越え、楽しく充実した日々を過ご



せたこと、嬉しく思っています。卒業式でお話したことを少し紹介します。

六年生のみなさん、ありがとうございました。 【コロナ禍で始まった2020年度】

2020年度は、みなさんが予想もしない年になりました。「ステイホーム」「ソーシャル、フィジカルディスタンス」などという新たなワードも登場し、休校が三カ月以上続きました。みなさんの生活も、「マスク着用、手洗いの徹底、人と距離!」と言う新しい生活様式が導入されました。初めは戸惑っていた人もいましたが、今ではしっかり定着しています。この新型コロナウイルス感染拡大により、世の中はとて大きく変わりました。世の中の空気も変わったように思います。

【1年間を振り返りました】

そんな、どんよりとした圧迫されるような空気感を、見えないものと闘っている不安感を、吹き飛ばすように、君たちは一日一日を大切に過ごし、楽しい学校生活を送ってくれました。少し振り返ってみたいと思います。学校が再開した6月、六年間待ちに待った修学旅行が中止となりました。担任の先生方から、「文句ひとつ言わなかった…」と聞きました。プールも中止になりました。暑い中、夏休みも短縮され、汗びっしょりになって毎日登校しました。君たちより先にクーラーがダウンしました。それでも、君たちは頑張り続け、小さな楽しみを見つけました。行事ができずに、毎日6時間授業の繰り返し・・・給食も黙って食べる、友達との学び合いはできず、休み時間も暑さのため外で思い切り遊べない。そんな生活でしたが、いつも元気いっぱいでした。

2学期に入り、少しずつ日常がもどりました。九月に日帰り体験学習として淡路島へ、思い切り体を動かし遊ぶことができました。今でも、あの時の君たちの解放感あふれる笑顔が忘れられません。10月には運動会。全校の前で披露してくれたフラッグ、ビシッと風を切る音が君たちの心の強さを表しているようでした。かっこよかった・・・みんながそう言っていました。11月初めの取り組みの作品展。学年全員で製作したオーケストラ、演奏をバックに「思い出詰まった版画」を見ているととても胸が熱くなりました。でも、再び感染が拡大し始め、またもや自粛生活、理科の実験、家庭科の調理実習、音楽の合唱や合奏...を控えることにしました。12月には一人一台タブレットを配布しました。先生たちより、とても上手に使いこなしながら、こんな動画できたよ!こんなプレゼン作ったよ!と見せにきてくれました。日に日に、タブレットの活用が上達してきました。

1月、二回目の緊急事態宣言。学校は休みにはなりませんでした。制約されることが増えました。それでも、何か楽しいことができないかと、児童会や委員会活動を活性化してくれました。放送委員会の「なんでもベスト3」体育委員会の「学級対抗なわとび大会」児童会の「宝探し」

図書委員会の「読んだな」、紹介しきれませんが、とても活発に活動していました。2月のマラソン大会、全力を出し切り満足感あふれる表情でゴール。爽やかな空気が流れていました。1, 2年生の教室へ、タブレット学習のお手伝い、やっと下級生と交流ができるひと時、みんなが優しく教えてくれたので、上手に使うことができました。でも、卒業が近づくにつれて、とても寂しくなりました。最後の思い出づくりとして、日帰り体験学習で京都太秦映画村、卒業遠足でUSJ、素敵な心に残る思い出がたくさんできました。みんなの努力の軌跡は語りつくすことができないぐらいたくさんありました。



【中学校への期待 空気感を意識して・・・】

新型コロナウイルス感染症の拡大による人間社会の未曾有の経験・・・コロナ禍は人間にとって望まぬ経験でしたが、6年生の君たちは、学校のリーダーとしてたくさんの下級生とともに苦難に立ち向かい、乗り越え、生き抜く自信を手に入れました。これからは、予測不可能な時代が続くと言われています。でも、どんなことがあっても、君たちはこの1年を乗り切ったことを自信に、進んでいくことができると信じています。

そんな皆さんに、一つ託したいことがあります。それは、「誰もが安心して生きていける温かく優しい空気感の満ち溢れるある社会」を形成してほしいということです。

皆さんは、「空気感」について考えたことがありますか? 空気感とは、人や場所が持つ雰囲気のことです。例えば今日この会場の「空気感」どうでしょうか? 卒業式にふさわしく、壁面には、在校生が作った桜の花びらと羽ばたく鳥を飾り、舞台上には学校旗などを置き、卒業の喜びと感動を与え、華やかな旅立ちを祝う、少し厳粛な中に感銘深い雰囲気を醸し出していると思います。

空気感は、その場所とそこにいる人で作っているのです。何も言わなくても、何もしなくても、そこにいる人の行動や表情によって、その場所の「空気」を作ります。みなさんが仲間と共に過ごした教室、そこにはどのような空気が漂っていたでしょうか? 毎日同じではなかったはずです。始業式の朝、遠足の日の朝、みんなで話し合いをしたとき、学級で何かいやなことがあったとき・・・など、その日その時によって、様々な空気が流れていたことでしょうか。

でも、中学校では、どんなことがあっても教室は「あたたかく、そして、やさしい」空気が流れる場所であってほしいと思っています。勉強が苦手な人も安心して学べる教室、運動が得意でも楽しめる教室、友達とうまく話せなくても大丈夫な教室、そのような、だれもが、何だかホッとできるそんな教室を作ってほしいと思っています。

そのためにしてほしいことは、三つあります。一つ目は、「最高級のあいさつ」を毎日すること、どんなことがあっても、「おはよう!」と元気のいいあいさつで教室に入ってください。二つ目は、多様な人の考えを知り、一人ひとりの気持ちをくみ取れるよう、人との出会いを大切にすること、世の中には、多様な考えや価値観を持った人がいます。たくさんの人との出会いは、互いに認め合うという豊かな心が育ちます。三つめは自分がその場所の空気を作っていると自覚し、思いや考えを言葉にするとき、何か行動するときには責任を持つことです。

人生は、あらゆる場面で選択をしていると言います。それは、どの道に行くかという選択だけでなく、毎日の言動や行動も選択しているということなのです。友たちに注意をしたいとき、やさしく言う方がいいか、厳しく言う方がいいかという選択、教室に入るとき笑顔で入るのがいいか、疲れた顔で入るのがいいかという選択・・・。「あたたかくて、やさしい」空気が流れる場所にするには、どうすればいいかたえず選択、考えながら進んでいける人になってほしいと思います。

立派な6年生の卒業式でした。次は、5年生がこの学校を率いてくれます。とても楽しみです! よろしくお祈りします!

